

くすのき



令和4年度
千葉市立山王中学校
学校だより2号
令和4年5月13日(金)
校長 細川 義文

応援することが力になる

細川 義文



4月から部活動で春大会が始まっています。コロナ禍で保護者の方の試合観戦ができない競技もある中ですが、役目上ベンチ入りさせてもらったり、屋外での競技なので応援に行かせてもらったりしましたが、どの競技でも一生懸命に取り組む生徒の姿が見られ、とてもうれしくなりました。

そんな中、試合に出場している選手だけでなく、ベンチや会場から声援を送ったり、選手をサポートしたりする生徒たちの姿を見ることができ、感動を覚えました。

女子バスケットボール部の試合会場へ行った時のことです。ハーフタイムにシュート練習をしていたのですが、1人の選手のところにボールが2球行ってしまいました。その時にサポートをしている生徒がさっと駆け寄り、1球を受け取り、その選手がシュートするとすぐにその1球を渡していました。選手が1球でも多くシュート練習ができるようにとの、周りでサポートをする生徒たちのすばらしい心遣いでした。さらに、試合中にタイムがかかり、選手がベンチに戻ってくると、素早くうちわであおいでクールダウンできるようにしていました。選手たちが試合でベストなパフォーマンスでプレーできるように気遣っていました。すばらしい雰囲気を目の当たりにし、私もついつい大きな拍手で応援していました。



サッカー部では、給水タイムのときに控えの選手が素早く水筒をタッチライン上に並べ、ピッチでプレーしている選手が水分補給をしやすいように気を配っていました。

男子バレーボール部では、サービスエースやスパイクが決まったときに、ベンチの選手たちがコート内にいる選手と一体となって歓声を上げ、選手を盛り立てていました。声援が確実に選手たちの力になっていると感じました。

その他の部活動の試合でも、選手がベストを尽くせるよう応援し、良いプレーには一緒になって喜び、失敗したときには「ドンマイ！」と声をかけるなど、一生懸命サポートをしていました。こんな良い雰囲気で試合に臨んでいる様子が見られ、今年の夏の総合体育大会でもきっと成果を挙げてくれると確信しました。

これからも一生懸命頑張る生徒を応援していきます。